

人間尊重の精神を基盤にして、一人一人のちがいを認め、学び合う仲間づくり

高砂市立荒井小学校
主幹教諭 徳永 美子

1 取組の内容・方法

(1) はじめに

本校は、学校教育目標「人間尊重の精神を基盤に、健やかで、自ら学び、たくましく生きる力をもつ児童の育成」をめざし、「みんなで深く学び合う授業」「みんなで考え、話し合う、道徳・人権教育」「みんなでつくりあげる特別活動」を柱として、日々の教育活動に取り組んでいる。

本校の子どもたちは、明るく素直で集団として落ち着いて行動することができる。友達ちに対しても寛容で温かく受け入れる風土がある。その反面、教師の指示待ちが見られ、自分たちで創意工夫しそれぞれの思いや考えを実行しようとする姿勢が弱く、周りの様子を見たり人任せにしたりする面もある。

そこで、「みんなで深く 学び合う授業」「みんなで考え、話し合う 道徳・人権学習」「みんなでつくりあげる 特別活動」の3つの柱を立て、思考力・判断力・表現力、健全な自尊感情・道徳性、自主的・実践的な態度を育成していこうと考えた。

(2) みんなで深く学び合う授業づくり

○3G+Tを意識した授業

- ・Goal (めあてを明確に)
- ・Group (グループでの学び)
- ・Goods (物を取り入れる)
- ・Think (深く考える)

○より深く考えるための発問の工夫

- ・思考方法を意識して、発問や指示を考える。
- ・児童に思考方法を提示し、発達段階に応じた思考方法を身に付けさせる。

- ・「より深く考えるための言葉」を使って自分の考えを伝えられるように教室に掲示する。

○ペアやグループでの学び

- ・話し合いや、考え方を説明する場を多く入れる。

図1 話を聞きより深く考えるための言葉

<p>☆話を聞き、より深く考えるための言葉☆</p> <table border="1"> <tr> <th>用語</th> <th>意味</th> </tr> <tr> <td>目的</td> <td>(目的)「何をやるか」</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>(理由)「なぜやるか」</td> </tr> <tr> <td>方法</td> <td>(方法)「どうやるか」</td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>(結果)「何ができるか」</td> </tr> <tr> <td>感情</td> <td>(感情)「どう思うか」</td> </tr> <tr> <td>感想</td> <td>(感想)「どう感じたか」</td> </tr> </table>	用語	意味	目的	(目的)「何をやるか」	理由	(理由)「なぜやるか」	方法	(方法)「どうやるか」	結果	(結果)「何ができるか」	感情	(感情)「どう思うか」	感想	(感想)「どう感じたか」	
用語	意味														
目的	(目的)「何をやるか」														
理由	(理由)「なぜやるか」														
方法	(方法)「どうやるか」														
結果	(結果)「何ができるか」														
感情	(感情)「どう思うか」														
感想	(感想)「どう感じたか」														

○見通し、振り返りのある授業

- ・めあてに対し、どんな学びが得られたか、次の学習の目標は何かなどがわかる工夫をする。

(3) みんなで考え、話し合う道徳・人権教育

○教材分析シートを活用した授業づくり

- ・分析シートを用いて教材研究をする。教材の構図をつかみ、ねらいや中心発問、児童の反応を考えていく。

○「対話」により道徳的価値の理解を深める

- ・他者との対話や自己内対話をとおり、多面的・多角的に考えを深める。基本発問の数は少なくし、中心発問での「問い返し」により道徳的価値にせまる。振り返りの時間を十分にとる。

○ローテーション授業による授業力の向上

- ・年に2回以上、学年内でローテーション授業を実施する。児童理解を深めるとともに、教師の十八番授業を作り、指導法を工夫・改善することで、実践的指導力の向上をめざしている。

○自分見つけアンケートの実施

- ・年に1回、「自分見つけアンケート」を実施し、児童の変容を見取る。

図2 教材分析シートの活用

教材分析シート (主人公が道徳的価値の自覚をする場合)			5	主題・内容項目	働くことの充実感・C- (14)
1	教材名 (出典)	ぼくの仕事は便所そうじ (小学生の道徳6) 廣済堂あかつき	6	中心発問以外の場面の発問 (※場面の数は教材 (資料) による)	予想される児童生徒の反応 (答)
	教材を読む (骨格をつかむ)	①生き方を自覚 (変化) したのは誰か (主人公)		「ぼく」は、どうして仕方なく便所掃除をしていたのでしょうか。	・動物の世話がしたかったから。 ・誰も嫌がる仕事だから。 ・新米の自分に与えられた仕事だから。
		②生き方を自覚 (変化) することになった出来事 (助言) は何か		「この便所はだれがそうじしてくれたのかしら。とってもきれいになっていて、使っていて、本当に気持ちがいい。ありがたい、ありがたい。」というおばあさんの言葉。	「ぼく」はなぜ「心理」を発見できたのでしょうか。
③生き方を自覚 (変化) するのはどこか	それを聞いたとき、ぼくは、頭を金づちでぶんなぐられたくらいのショックを受けた。	ねらい	(A)おばあさんの言葉に金づちでぶんなぐられたくらいのショックを受け、一生懸命に掃除してみようと思った (道徳的に変化する) 主人公を通して		
2	<構図>	出来事 (助言) 金づちでぶんなぐられたくらいのショックを受けた。 (center) きれいなお便所は一生懸命に掃除してみよう。 (after) 真理の発見。 (self-awareness) 園内の掃除の仕事を与えられる。人間の便所掃除は嫌で嫌で仕様がな。	7	(B)働くことの意義や充実感を知り、進んで公共のために役立とう	とする
3	中心発問	「ぼく」は何に気づいて「一生懸命掃除してみよう」と決心したのでしょうか。		(C)道徳的実践意欲	を主として育てる
4	中心発問に対する予想される児童生徒の反応 (答え)	・喜んでくれる人がいる。 ・便所がきれいだと動物園を好きになってもらえる。 ・自分に便所掃除が与えられた理由。 補助発問(道徳的価値をさらに深く考えられるように問いを準備する) おばあさんの「ありがたい」という言葉を聞いて、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。	8	本時で考える道徳的価値 (上記「7」の(B)に記入した道徳的価値についての詳細)	働く意義の中には、自信のした仕事とおして人から感謝されたり、自分を肯定されたりする側面が大いに含まれている。児童には、働くことの意義を理解し、そのよさに気づくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていってもらいたい。

中心場面までのストーリーを簡潔におさえること

道徳的行為の変化をもとにした、道徳的価値の理解の変化や自覚したことをおさえること

(4) みんなでつくりあげる特別活動

○合意形成を大切にした学級活動

- ・議長を中心に合意形成を大切にして学級会を進める。
- ・「合意形成を図るために」の図を掲示して、意見をまとめる際に役立てる。

図3 合意形成を図るために



○児童が主体的に活動するために

- ・学級活動の授業研究を行い、高学年の学級会の様子を3年生以上の学級代表児童に見学をさせる。
- ・議長の進め方やとりまとめ方、全体の場の意見の出し方などを学び、それぞれの学級で報告し学級会に生かす。

写真1 授業研究の様子



2 取組の成果

(1) みんなで深く学び合う授業づくり

- ・発問を工夫することで深く考える力がついてきた。
- ・学習したことをもとに、次のレベルの高い課題に取り組めた。
- ・グループで学ぶことで発言する機会が増えた。
- ・3Gを意識した授業づくりができています。

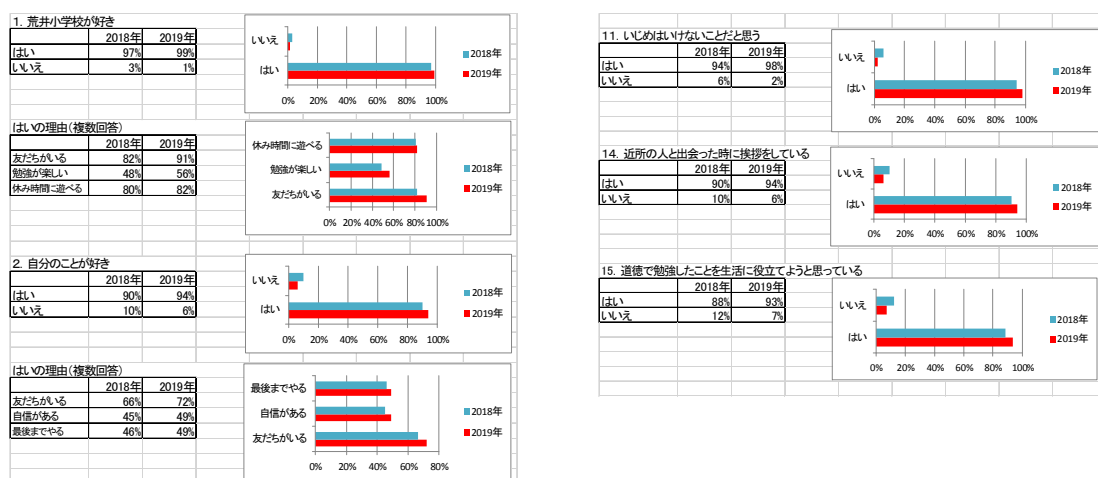
(2) みんなで考え、話し合う道徳・人権教育

- ・他教科で発表できない児童も道徳の時間にはみんなで考え、自分の意見を発表することができている。
- ・ローテーション授業では、児童の意欲も高まり、教師の授業力もアップしている。
- ・主発問だけでなく、道徳的価値を深く考えるための問い返しや切り返しを意識して授業づくりを進めている。

(3) みんなでつくりあげる特別活動

- ・議長団を当番制にし、すべての児童が役割を果たせるようになってきた。
- ・掲示物を活用し、スムーズに話し合いを進められるようになっている。
- ・「あらいっ子フェスティバル」の各学級のお店の内容を決める際、学級で十分に話し合い、合意形成を行ったため、どの子も満足のいくよりよい出し物ができた。
- ・話し合いの振り返りをする時間を設定することで、自分たちで話し合いの質について評価することができた。

図4 アンケート結果（一部抜粋）



3 課題及び今後の取組の方向

今後は、昨年度から引き続き、「みんなで深く学ぶための授業づくり」では、深い学び合いのために課題や発問を工夫した授業づくりを、「みんなで考え、話し合う道徳・人権教育」では、子ども自身が互いの意見を受容した上で、自分の意見をはっきり述べたり、また、自分の考えを変化させたりと、常に他者との対話、自分との対話をするを大切に授業づくりを進めていく。また、「みんなでつくりあげる特別活動」では、課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりすることができる児童をめざして、取組を進めていく。